

議 事 録

令和5年3月15日

件 名	令和4年度 第2回松本市文化芸術振興審議会について		
日 時	令和5年3月14日(金) 13:30 ~ 14:30	場 所	大手事務所2階 サポートセンター会議室
出席者	松本市文化芸術振興審議会委員(4名): 笹本正治、宮嶋弘樹、山根宏文、倉澤聡 事務局: 村山課長、公保課長補佐、報告者(北山主事) 欠席者: 滝沢一以、辻本敬太		

【趣旨・結果等】

標記会議の開催結果について、下記のとおり報告するものです。

記

1 開会

(笹本会長)

いい季節となった。松本城の横を通ると常念岳の雪が輝いており、とても美しく見えた。これから信州はとても良い時期になると思う。そうした中で、松本市の文化芸術は一体どんな目標でいるのか、また、どうすれば市民の心の中に文化芸術を根付かせることができるのか、委員の皆様のご協力により今まで論議してきた。ただ、我々が行ってきたことについて、具体的に動いているのか。本日の議論では、「(1)松本市文化芸術推進基本計画の進捗について」があり、状況を確認した後、「(2)今後の展開について」で委員から、まだできることはあるのではないかと、この内容は弱いのではないかと、などいろんなご意見を伺いたい。

2 会議事項

(1) 松本市文化芸術推進基本計画の進捗について

事務局から説明

(笹本会長)

説明があったとおり、Ⅰ部が総合的な進捗、Ⅱ部が振興に関する連携・交流・活用、Ⅲ部が人材の養成・確保、Ⅳ部が環境の整備・充実と別れている。よくやっている、あるいはまだ弱いと思うところがあれば発言をお願いしたい。実際に活動されている宮嶋委員はどう思われたか。

(宮嶋委員)

先ほどの説明だけでは全体像を掴むことは難しかったが、こうしてチェックする場があるからこそ「ここまでできているんだ」「これはできてないんだ」と確認する機会になっていると感じた。実績のところの数値的な結果は示されているが、実際やったことによってどんな広がりがあったかなど、具体例があると良いと思う。「おでかけオルガン」の備考に書かれているが、音楽文化ホールに小学生未満は常に入れないのか。

(北山主事)

講演にもよるが、小学生未満が声を発することもあり、入れないことが多いと聞いている。

(笹本会長)

逆に言うと、今の質問の対応を行政が行っていかなければならない。演奏者側は声がうるさいのは困るかもしれないが、将来を考えるとであれば年齢関係なくどんどんやっていくべきである。他に思ったことは、「おでかけオルガン」がどうして小学生未満に限られているのか。小

学生までの子は全て一緒にやればいいのか。あまりやりすぎると逆に集まらないし、感動もないと思う。また、我々が評価していくときに分かりやすいデータがほしい。例えば、「おでかけオルガン」であれば年に行う講演のうち、現在の未就学児が入れる講演の数が1回、2回増やしたとなれば成果となる。しかし、何もしなければ文化芸術の人材育成にあまり寄与されていない。こちらにとって説明ができる体制となるようにデータを用意していただきたい。

(倉澤委員)

取組内容の取捨選択はどのように行ったのか。

(北山主事)

本計画を作るにあたり、重点施策を決められたため、まずは重点施策から取り組むことを考えた。また、ちょうど松本市が今年度から実施している「松本まちなかアート project」と関連している内容をピックアップした。他にも、新型コロナ感染症の影響により、これから文化芸術に触れる機会を増やすといった目的で、施設などでのワークショップをとりあげた。また、地元アーティストのつながりを深めるため、以前から提案のあったアーティストバンクの活用についても取り組むこととした。

(笹本会長)

先ほどの説明のように何故この項目が選ばれたのか事前に説明してもらわないと、自分達にとって都合の良いものだけ書き出しているのではないかという気にもなる。どうしてこれらを選んだのかをある程度説明できるように、そして、10年後にすべての項目ができなかった場合でも、重点を置いた部分で成果をあげ、着実に全体としては前に進んでいると説明できるようにしてもらいたい。

(倉澤委員)

文化芸術振興に関わるころの全体像を示すことはなかなか難しいと思う。計画としてしっかり力を入れて取り組んでほしい。また、一般的な認知のところをベースとして取り組まれていることはいっぱいあると思う。その部分について何かしら工夫したことが書かれていると、なぜこの事業が取り上げられたのか分かると思う。

(笹本会長)

項目の選び方を市民に理解してもらえるようにしてもらいたい。

(山根委員)

暮らしの中に文化芸術があることが好ましいということと、子どもの教育をしっかりしてほしい。市制110周年のときに街中でのアート事業と楽都のライブを私は提案した。街中でのアート事業は倉澤委員にお願いし、街中の様々なところでクラフトをして、評判も良かったが形だけで終わりました。楽都ライブはずっと続けてくれていて助かっている。美術館のようなお金を支払って見るだけではなく、普段から触れる機会が必要である。例えば浜松市では毎週、駅のいろんなところで音楽の演奏をされている。松本市はお金さえ払ったら見せるという文化芸術政策の感じがしていたため、今回は街中で、暮らしの中で文化芸術に触れる機会を作っているのが段々見えてきた。松本まちなかアート project は今後ともお願いしたい。

(笹本会長)

私の感想でいうと、文化芸術が偏ってしまって、文化そのものが認識されていないのではないかと気がしてならない。今年新しい博物館がオープンされるが、博物館と美術館あるいはお城と我々のやっていることが縦割り行政でつながりがよく見えないと散々言っている。新しい博物館を作るのであれば、そのための宣伝活動を我々が文化芸術のプロモーションとしてやるという方法があるはずだが、無精という気がする。資料にも他の課とつながっていくということをこの場で言ってきた割にはまだ書かれていない。私は行ってはいないが「マツモト建築芸術

祭」が良いと思った。これは、博物館、美術館と連動ができる。こういったものをもっとやっていくべきではないか。例えば、今回であれば建物だが、街中の建物以外のものでもできるはずである。松本市のパターンとなれば良いというのが感想である。

次に審議会の委員には関係する公共施設へは、すべてフリーパスで入れるようにしてもらいたい。例えば、私は松本市の博物館協議会の責任者をやっているが博物館への入場はフリーパスだが、対象が限られており、美術館には入れない。美術館や松本城など、我々は全体を見る必要がある。私はよく言っているが、委員の皆様が見ることがそのまま実態を知ることになるし、時間を作って見に来てくれることは大変ありがたいことであるため、松本市として芸術文化に関係している所はすべてフリーパスにしてもらいたい。それによって、さらに活性化する可能性がある。先ほど少し触れたが、今後子どもの問題をどうするかということが芸術文化を考えるうえで重要となるため、触れる機会をできるだけ作っていただきたい。安曇野市では美術館、博物館が各学校へ訪問し、来年度からはピアニストが学校に訪問することになっている。私の知り合いのピアニストには大滝村でボランティアとしてピアノ弾いてもらった。来られた方は60人、人口が700人弱であるため約1割の人であった。松本でいうと2万人以上が聴きに来ることになる。そういう意味からすると、松本市の場合も文化はどうしても中心に集まりがちであるため、かつて合併した梓川や波田などをどうするか考えてもらえるとありがたい。金沢市では、田中泯のダンスが2,500円で見ることができ、他にもOMFのオペラで指揮した沖澤のどかの講演が2,000円か3,000円で見ることができる。これからはいかに安く、みんなと接触できるか。それを具体的にすることが私達の成果としたい。今までやってきたことが従来と比べて、ここまで達成したと具体的に示さなければ、未来を創る文化芸術の10年計画にならない。

今の状況としては、各委員の意見を前提としながらよくやっているようだが、市民に届かなければ文化にはならない。ぜひ、垣根を取り払いながらももう少し前に進めてもらいたい。もう1つあり、時間とお金に余裕のあるのは高齢の方であり、高齢の方が楽しめる環境とは何かというように供給する相手先との関係を配慮しているということが松本市の特徴であるということにすればいいのではないか。

(宮嶋委員)

子ども向けについて、先日まつもと市民芸術館の小ホールで子ども向けのパフォーマーの方が来て、笑える内容であったが腕前は超一流だった。子ども向けの演目に注目しがちになるが、親が「あの部分面白かったよね」と思ってもらえるような、親にどのように影響を与えるかも大切だと感じた。これからは、子どもも楽しめるけど、大人も楽しめるような機会を如何に作るかが大事であると実感した。

(笹本会長)

本当の超一流は誰が見ても感激する。子どもだから分からないということではなく、実は子どもが一番鑑賞者としての意識が強い。揶揄すると、「子ども用」というのは、こちらが勝手に枠を作っているものであり、たいしたことがないという理由で「子ども用」と全く逆の選択をしてしまっている。超一流を子ども達に見せてあげないと感性が伸びないため、宮嶋委員が言ったようなことと併せ、親も一緒に見ることができるようやり方に持っていけたら良い。

(山根委員)

意見を聴くとおり、子どもが全てだと思う。金沢市の21世紀美術館の現代アートなどすごく子どもが喜ぶ。文化芸術は市の予算の3%と非常に高い割合となっているが、これが子ども中心となっても良いと思う。金沢市では6,000万円使って小学校4年生を招待するプログラムを実施している。松本市も文化芸術を謳うのであればきちんとしたことをしてもらいたい。

(2) 今後の取り組みについて

事務局より説明

(宮嶋委員)

地元アーティストの活用について、まずはアーティストバンク関連だと思うが、私が行っている楽都松本ライブとうまく連携できればと思う。松本市は他にもいろいろ活動している団体があるが、なかなか連携できていないため何かしら連携できれば良い。また相談させていただきたい。

(笹本会長)

市内にいる人達を利用するだけでは困る。その人達をどのように上げていくのかが問題で、子どものときにプロと地元の組み合わせや、行った地元の人達が向上できるような方策を考えなければならない。松本の音楽が非常に伸びてきているのは、OMFがあることが間違いないが、「おでかけオルガン」もここまでお金をかけた方策であると胸を張って言えるようにしてもらいたい。先ほど少し触れたが街中というように松本の旧町が中心となっているが、「おでかけオルガン」は郊外にも何回行っているのか。長野県おでかけ歴史館では下伊那や木曾のような来づらい場所に行くという名目でやっており、各学校に声をかけていない。呼ばれたら行くのではなく、どういう風に育てていけばいいか考えながら活動していただきたい。

(倉澤委員)

取組みとしては5W1Hが大切で、誰がというところが大事となる。この取組みは文化振興課がメインとしてやっていくことを掲げているのか。

(北山主事)

文化振興課として検討したものを掲げているが、観光などでも文化芸術と関わっている事業を行っているので、今後はその部分も盛り込んでいけたらと考えている。

(倉澤委員)

例えば、文化財の保存・活用であると、文化財課や松本城管理課の動きが大事となると思うし、観光となれば商工課や観光プロモーション課が関わってくる。街づくりとなればお城まちなみ本部や都市計画課、子どもの育成だと保育課や教育委員会が関わる。全て文化振興課だけではできないので、関連する部署を整理して書き込んでいくことも大事だと思う。「マツモト建築芸術祭」では、文化振興課はどんな協力をされたのか。

(北山主事)

会場として松本市の施設の使用する際に、文化振興課が関係課と調整し、使用の許可や使用料の減免等の可否の確認をするなど、総合的な窓口となって支援している。

(倉澤委員)

「マツモト建築芸術祭」は補助金で行っているのですが、今後続けていくかは課題となっていくので検討が必要であると思うし、主体がいろいろ言うのは当然なので、そこをまとめて、しっかりと書かれると良い。あと、子どもの話だが、FESTA 松本で中学校とつなげてほしいという話があった。丸の内中学校の総合学習で、「はじめとおおじデュオ」が中学校に行き、吹奏楽部と練習をして、信州大学の前で披露するという話があったが残念ながら流れてしまって、保護者だけ呼び、中学校で演奏をした。やはりプロの方に子ども達が刺激を受けると一皮、二皮むける。OMFはそういったことをやっているが、すぐにこういった予算を確保することは難しいので、他を絡めることでいかに予算を節約しながら、子どもの刺激になる、一緒に作り上げる、といったやる側の視点に立った教育政策もあるのではないかと感じた。

中学生の総合学習が盛んになっているが、学校の課題として見る人がいない。私も80名を先生と一緒に見ていた。なかなか子ども達の興味に対して、大人が一人一人フォローできない。その中で、文化芸術で何かやりたいという意見も出てくるので、地域のフォローなどできるこ

とはあると思う。これは文化芸術だけではないが、地域で子ども達の興味を深掘して、それをかきたてられるようなきっかけを与えることは大事なことである。教育委員会が音頭をとるべきだと思うが、早急に検討していかなければならない。

(笹本会長)

すごく重要な点があった。明科でやっていた能、今は安曇野市の能となっているが、そこでは青木さんと呼ばれる能楽師が地域に入り、子ども達に教えている。松本市でも松本城で能をやっているのであれば、そういった人達がどのくらい地域と絡んで文化を上げてくれるかを見てもらうべきである。年に1度だけ上演して終わりだと、文化が上がっていると思えない。今、倉澤委員から子ども達の問題、学校教育等の問題のご指摘があったので、その辺りを考えていただきたい。

(山根委員)

教育について、高山市から松本市はOMFをするようになってから急に吹奏楽の音楽のレベルが上がったと言われる。調べてみると、プロの演奏を聴くと、「自分が使っている楽器はこんないい音色がするのかわ」と感動するそうである。そして、頑張って演奏したいという気持ちになる。これはスパルタでは教えられない。本物に触れることにより彼らは変わっていくと言われる。彼らの吸収力は大人より強いものを持っているので、本物に触れることをもっとしていただきたい。アーティストバンクについて、ホームページは演奏者であれば音楽が聴けたり、見れるようになっているのか。

(北山主事)

まだなっていない。

(山根委員)

フランスのパリの地下鉄では300団体の中でオーディションをしており、全てYouTubeで演奏の姿を見ることが出来る。そのミュージシャンを集めたCDもあり、パーティの際に使って下さい、というようなプロモーションも兼ねて行っている。アーティストの一覧を提示するだけであれば、京都は50年前からやっている。塩尻市では、漆の作家一覧を作り、作品の紹介を行っている。だから、YouTubeで演奏、作品を紹介などもっとやっていただくと助かる。

(笹本会長)

今の松本市は個々の仕方を含めて、全体として弱い気がする。倉澤委員が全てできなくても観光や他の課に任せるといったことについて、全部一覧にして、文化芸術の全体の中で担当課に我々が任せて、リードしているというイメージができるようにすることが重要である。気がなったことが「Ⅲ文化芸術を担う人材の育成・確保」の「まつもと市民芸術館、音楽文化ホール、美術館(学芸員)の専門職同士の意見交換を実施し、新たな発想につなげる」と書いてあるが、今はもう身近になっている。昨年美術館で行った松澤豊展を見ていると、我々の考えるような芸術とは全く違って、博物館、美術館、公民館は垣根がない。それにも関わらず、博物館も公民館も図書館も入っていない状況では、文化が上がっていくはずがない。私が信州大学にいたときに図書館長をやっていた。その時に長野県立図書館、信州大学の図書館、長野県立歴史館、長野県立美術館でMLA連携(ミュージアム、ライブラリー、アート)というものをやっている。さらに、今言ったところの話だけではない。松本市もどんどん中に入って、例えば、松本市立図書館が県全体のMLA連携につながっていくとか、考えてもらいたい。その現場で一番活動しているのは公民館である。公民館数が一番多いのは長野県である。そういった意味では、もっと幅が広がっていることを意識した方が良い。なんとなく自分達のところだけでやってしまっているように見えてしまっているのは良くない。そういう意味では「地域博物館、公民館、図書館等」と明記しなければならない。

この議題とは別になるが1つ質問をしたい。とある市では合併された市町村側の博物館や美

術館の予算がどんどん減っている。合併すれば予算は増えると思っていたが、まったくの逆であったという話を聞いた。もし可能であれば改めて梓川の博物館のような地域博物館、地域美術館が消えていかないためにどんなことをしているか。つまり、予算が増えているのか、減っているのか、過去のままなのか。文化振興のために我々に1度示してもらいたい。

もう1点、今回の「伝統行事である「ぼんぼんと青山様」について、市内での実施状況など実態調査を行う。」というのは、教育委員会でやっていることなのでよく分からなかった。もっと言うと、何故これを観光行事に使わないのか。伝統観光としては使えるはずである。松本市の観光は、今までどおり松本城と上高地のような当たり前のことをやっていて、大事なことを忘れている。文化はありとあらゆる所にあり、1番人が集まりやすい文化は美味しいものを食べさせてあげる文化である。そういったような発想を少し、考えていくべきではないだろうか。

それからもう1つ、二重になっていないか。例えば公民館で講演会を行う、別で博物館で講演会を行う。それらが、同じような内容となっていないか。投資が二重、三重となっていないか。チェックをぜひ行っていただきたい。少なくとも何かを行う際は資金が必要となるため、お互い統一できるところは統一しなければならない。例えばだが、公民館で行う文化芸術に関する講演があれば小ホールとしてカウントして、どれくらい市民に提供できているか一覧ができるだけでも評価が違ってくる。まだまだ時間はある。例えば、道祖神1つでも、信濃の道祖神はすごく面白い。高遠町では守屋貞治で大きく売ろうとしている。松本市内における道祖神も周辺観光として取り上げられている。発想を変えていただきたい。博物館でいうと、博物館法の改正により、これからしなければならないことがデジタル化である。予算も人もついていないのにデジタル化を進めるということは、観光の問題である。そういった意味では時代は変わっているため、従来型のやり方ではなく、部署を超えてやっていくにはどうすれば前を向けるか。それはここでもずっと言ってきた。この辺りは注意していただきたい。

(倉澤委員)

情報提供だが、公民館の地域づくりの集会で伝統行事をどうつなげていくかというテーマでぼんぼんと青山様を取り上げられた。弘前大学を卒業した田中さんが論文を書いていたので参考にしてもらえたらと思う。どちらかというともぼんぼんより青山様の方が続いていく傾向にあるそうだ。あと、音楽をはじめ文化的な活動の練習であがたの森や公民館を使う人が多いと思うが予約がやりにくくなった、面倒になったと数名の方から聞いた。管理側の状況もあると思うが、使い勝手が良くなっている話はきかないので、そのあたりがベースとして大事なことで、できることがあればお願いしたい。

(笹本会長)

ぼんぼんと青山様で女の子が松本城を背景に歩いている写真を見かける。近づいてはいけないという制限さえ設ければ、写真を撮りにやってくる人は多いと思う。今の世の中では良い写真があればそれを撮りに来て、それがどんどん拡散されると状況が違ってくる。松本市が方策を全てやるというのが間違いで、松本市がやらなくてもやってくれるようにするためにはどうすれば良いのか、ということを考えてもらいたい。

(倉澤委員)

島立の沙田神社では御柱の木を切りだした。話を伺うと、引継手がおらず、40歳までという年齢制限が歳をとるごとに制限が上がっている。もっと広報して多くの人に知ってもらいたいと話していた。文化財課は文化財を淡々と文化財の写真の写真を載せるという地道な作業を続けている。いろんなところが発信することは、すぐに効力はないだろうが大事なことである。文化振興課が2、3回のイベントでしか発信できないとしても、違うところから常に毎日のように発信していくようになればフォロワーも増えて良いと思う。

(笹本会長)

「人を見たくば諏訪の御柱、木を見たくば小野の御柱」と言われている。逆に言うと、「御柱の年は終わったが、松本市では御柱がある」というような宣伝の仕方だけでも随分違ってくるので観光とつながりながら考えてもらいたい。

3 その他

委員の増員について

(事務局)

女性の方数人に声をかけたが、当計画の作成に携わっていないため、評価することに対して気がひけるという理由から断られた。引き続き、候補者について検討する。

【指示事項】